



寄付金速報 — 2015-16年度も好調にスタート —

2015-16年度最初の月となる7月の寄付金は約2億2,400万円、前年度に比べて5.6%増、約1,200万円の増加となりました。3年連続して7月の寄付額が2億円の大台を突破する好調な滑り出しとなりました。寄付者の皆様に厚く御礼申し上げます。米山記念奨学事業は、日本全地区が参加する「多地区合同活動」であることをご理解いただき、事業の継続と発展のため、今後ともご支援ご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

来春採用の奨学生募集がスタート

2016年4月採用の新規奨学生募集が始まりました。各地区の米山奨学委員会からの報告により決定した指定校は全国で528校（前年度533校）、指定校からの被推薦者数は1,643人（前年度1,644人）で、この中から新規奨学生約540人が選ばれます。

地区奨励奨学金（大学・大学院以外の教育機関在籍者が対象）を導入した地区は13地区で、指定校は過去最多の26校、そのうち6校が初指定となりました。また、指定校への要望として、地区独自の推薦基準を提示したのは34地区中30地区でした。最も多かった要望は、被推薦者の国籍が偏らないよう配慮して欲しいというもの、次いで、「ロータリー活動への積極性」「日本語運用能力」などが挙げられました。募集要項・申込書は例年より早く、7月27日に全指定校へメールで案内しました。 ※2016学年度採用の指定校や募集要項などの書類は当会ホームページにて公開しています。

さまざまな寄付のカタチ — 大学の共同研究者から —

米山記念奨学金には、いくつか特殊なプログラムがあります。そのうちのひとつ「海外学友会推薦奨学金」は、海外の米山学友会が各国内で日本留学希望者を募集・選考して推薦する制度で、各学友会の希望によって、博士号を取得した上級研究者か、博士課程に進学予定の若手研究者が対象となります。現在は、台湾に2人、韓国と中国に1人ずつの推薦枠があり、海外学友会の活性化や現地での米山記念奨学金の認知度向上に役立っています。

漢陽女子大学教授の金容安キムヨンアンさんは、韓国米山学友会の推薦を受けてこの奨学金に合格。昨年7月に来日して1年間、昭和女子大学で日本近代文学についての研究を深めました。その間、世話クラブである東京原宿RCの例会に毎月出席して会員との交流を育み、第2750地区米山奨学委員会主催の広島研修旅行にも参加するなど、日本での見聞を広めました。奨学期間を終えて金さんは帰国しましたが、このたび、共同研究者の大学教授から、東京原宿RCを通じて当会へご寄付をいただきました。ご希望によりお名前の紹介は差し控えますが、教授が同RCに宛てた感謝のメッセージを抜粋してご紹介します。

「今回の金先生の受け入れを通じ、長年留学生教育に携わってきた者として、私自身もあらためてロータリークラブの国際友愛精神に感じ入るところがありました。皆さまから頂いたご厚情に対する御礼の気持ちとして、少額ですが、ロータリー米山奨学会の今後の活動にお役立ていただければ幸いに存じます。金先生は、今回与えていただいた日本での研究機会を糧に、韓国における日本文学研究・日本語教育に一層励まれ、日本と韓国の友好にご尽力いただけるものと確信しております」



世話クラブの例会に出席する金容安さん(左)

ネパール復興支援に心を合わせて — 関西学友会総会 —

「米山奨学生学友会（関西）」（第 2660 地区／以下、関西学友会）の総会および新規奨学生歓迎会が 7 月 5 日、大阪市内で開かれ、同地区の学友・奨学生・ロータリアンのほか、韓国・中国・台湾・タイなど海外学友会や国内他地区からの学友会会員、ロータリアンら、総勢約 170 人が出席しました。



今回の総会テーマは『実践躬行』。開会のあいさつに立った

2013-15 年度同学友会会長の何玉翠^{ホニョウツイ}さんは、「学友会は楽しくない、私もかつてそう思っていた一人かもしれない。けれども今思うのは、学友会は自分で育てるもの。結果でなく、過程が一番大事だと考えている。今日の総会・懇親会では、ネパール復興支援のさまざまなプログラムを企画した。今日は悲しみではなく、ネパールの明るい未来のために、皆で力を合わせたい」と、テーマに込めた



た思いを力強く語りました。学友会メンバーは国籍にかかわらず、女性は手作りのネパール民族衣装に身を包み、男性はネパールの帽子をかぶって復興支援をアピール。各テーブルには募金箱が置かれ、ネパール音楽祭として、何会長はじめ、学友会メンバーがネパールの踊りや歌を披露。最後は、ネパール族の民族太鼓に合わせて、大勢の参加者が会場内を踊りながら練り歩きました。

米山漬けの一日 — 第 2680 地区米山奨学セミナー —



第 2680 地区（兵庫県）で 7 月 25 日、米山奨学セミナーが開催され、地区役員のほか、カウンセラー、クラブ米山委員長、奨学生、学友など 197 人が参加しました。

セミナーには元よねやま親善大使の尤銘煌さんが講演に招かれ、さまざまな国の楽器や玩具を実演しながら、世界には多くの共通点があり、互いの文化を理解することが平和につながると力説する姿に多くの参加者が引き込まれました。カウンセラー体験談では、工夫の実例とともにカウンセラーのやりがい

熱く語られ、「奨学生は世界と日本を結ぶ懸け橋、カウンセラーはクラブと奨学生を結ぶ懸け橋」との名言が飛び出しました。丸尾ガバナーの指揮により、大好評の YONEYAMA 体操で体をほぐしたあとは、奨学生選考について詳細な説明、また、新学友会長となった七連波^{ニエレンボ}さん（2003-04／小倉西 RC）から学友会活動や帰国学友からのビデオメッセージ紹介がありました。

なお、受付では 10 周年を迎えた同地区米山学友会が第 3 回目となるネパール震災支援募金を行い、総額 172,505 円を P HD 協会へ寄付しました。



お知らせ★

- 2015-16 年度よねやま親善大使の紹介 DVD が完成！※当会 HP から視聴可能
- ネパール大地震義援金の受付は 8 月 31 日当会着金分にて終了します

